

令和7年度 教育指導の重点及び学校経営計画					
		学校番号	34	学校名	関有知高等学校
社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の可能性を伸ばす地域に根差した高校として 確かな学力の定着や専門知識の修得を通して 地域社会で生きる力を備えた人材の育成を目指す学校				
学校教育目標 (教育方針)	生徒一人一人の「生きる力」を育むため、個々の能力や長所を伸ばし、優れた創造性と豊かな社会性をもった、逞しく実践力のある心温かな人間・「よき地域社会人」の育成を目指す ・学び直しや教科横断型の学習活動、キャリア教育などを通して生徒個々の能力や長所を伸長する ・礼儀・身だしなみ指導を徹底するとともに清掃活動を充実する。また、総合的な探究の時間や学校行事を通して、優れた創造性と社会性を育成する ・リーダーを中心とした自律的な部活動やボランティア活動を通して、実践力と温かい心の育成を図る ・生活デザイン科の魅力の増進に取り組む				
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	・地域の暮らしと仕事、文化を守り、よき地域社会人として社会に貢献できる生徒 ・基礎力を身に付け、優れた創造性と豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協働できる生徒 ・SDGsの視点に立ち、広い視野から思いやりの心を持って物事を考え、社会や地域の抱える課題の解決に、積極的かつ継続的に取り組もうとする生徒			
	生徒をどう育てるか 【CP】	・生徒一人一人の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するための、基礎力の習得を重視したカリキュラムの編成 ・ICT機器を活用した授業、習熟度別授業、少人数授業・ティームティーチング等の多様な授業形態及び評価を工夫した、個々に応じた細かな指導の実施 ・地域の暮らしや仕事に親しみ、地域文化の素晴らしさを実感するとともに、SDGsの視点から地域や社会の課題を考える体験の実施			
	どんな生徒を待っているか 【AP】	・地域の暮らしや仕事、文化に興味を持ち、将来、地域の暮らしと仕事、文化を守り、よき地域社会人として地域の課題を解決していきたいと考える生徒 ・基礎力をしっかりと身に付け、自らその上にさらに深く学ぶことで、自身の可能性を伸ばし、進路目標を実現したいと考える生徒 ・思いやりの心とコミュニケーション能力を持ち、社会で他者よりよく関わり、社会貢献をしたいと考える生徒			
学校の抱える課題	・穏やかで心優しい生徒が多いものの、学業が苦手で計画的な学習習慣が定着していない生徒が多い。 ・あいさつができる半面、自己表現やコミュニケーションが苦手であったり、自己肯定感が低い生徒が多い。 ・身だしなみや言動に緩さが見られる生徒がいる。				
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標			
	学校経営	・学校全体の課題を解決するため、職員が一丸となった組織的な活動の徹底をする。 ・総合的な探究の時間や学校行事を通して生徒の生きる力を育み、「よき地域社会人」としての規範意識の醸成を図る。			
	学習指導	・学び直しの授業の充実や補助教材の活用を通して、生徒の学習習慣と基礎学力の定着を促す。 ・教員相互による授業参観や研修、授業評価アンケートをはじめとする各種データを活用し、現状を客観的に把握したうえで授業改善や教育課程の改善を継続的に実施する。			
	生徒指導	・生徒の多様性を認めながら、学校生活での多様な人との繋がりや関わりを通して、お互いを認め支え合いよりよく生きる力を身につける。 ・集団生活に必要な規範意識や倫理観の育成を通して自他の命を大切にすることを育み、いじめの未然防止と生活安全の取組の充実を図る。			
	進路指導	・生徒が主体的に進路を選択できる能力を育成するため、体験的活動を多く取り入れることで、ニーズに応じた進路学習を提供する。 ・キャリアプランナーをはじめ、関市や地域の外部団体との連携を通じ、望ましい勤労観・職業観を育成する。			

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	・様々な行事を通じて、地域の人々とながらうることにより、生徒のコミュニケーション能力向上を図る。	施策Ⅰ-1	・基礎力診断テストによる生徒の上位層への移行割合が70%以上。 ・総合的な探究の時間における学校独自アンケートの満足度の割合が高まること。				
	・組織的継続的な授業改善を推進し、生徒の基礎学力を定着させ、社会で活用できる学力の育成を図る。	施策Ⅱ-8					
	・大学等専門機関や職域と連携し、生徒の将来に向けた興味を引き出す魅力ある学校づくりを推進する。	施策Ⅳ-20					
	・教員の長時間勤務や多忙化解消に向け、学校全体で業務の見直しを行い、働き方改革の推進を図る。	施策Ⅳ-27					
学習指導	・学び直し授業の充実と補助教材の有効活用により、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。	施策Ⅱ-8	・各学年の平均学習時間の10%上昇。 ・生徒による授業評価の総合評価3.8以上。				
	・授業を通じて知識・技能および表現力や規律を身に付けさせるため、積極的な授業改善を図る。	施策Ⅱ-11					
	・生徒のよりよい学びの実現に向け、将来を見据えた教育課程の見直しを図る。	施策Ⅳ-20					
	・実態に応じた研修や教員相互の授業参観等の校内研修を通して、学び合いの文化の醸成に努め、教員の資質向上を図る。	施策Ⅳ-26					
生徒指導	・コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、人との関わりや繋がりを通して他者と協力し、地域社会に貢献できる人材の育成に努める。	施策Ⅰ-1	・保護者対象の学校評価アンケートの肯定的結果が80%以上。 ・生徒意識調査において、生徒指導の目標に対する達成度が80%以上。				
	・多様性への理解と偏見や差別のない生活を実現するため、学校の諸活動を通して人権意識の醸成を図る。	施策Ⅰ-2					
	・挨拶活動での見守りや丁寧な教育相談の実施により、生徒の変化を見逃すことなく、いじめの未然防止と早期発見に努める。	施策Ⅰ-3					
	・自他の命を大切にすることと態度の育成を図るため、健康安全教育や防災教育を組織的・計画的に実行する。	施策Ⅲ-19					
進路指導	・具体的な進路目標を明確にするため、生徒の実態に応じた行事の実施により、主体的に進路を決定できる力の育成を図る。	施策Ⅰ-1	・進学希望者の合格率及び就職希望者の内定率が100% ・インターンシップ実施後のアンケートで生徒と企業の満足度が高まること。				
	・進路教材の見直しを図り、個々の学力にあった課題を提供し、学習習慣の定着及び創出を目指す。	施策Ⅱ-8					
	・地域の産業界や関係機関等と緊密な連携による活動を通して、各企業への理解を深めることで、職業観・勤労観を育成する。	施策Ⅱ-13					
	・キャリアプランナーと連携し、企業情報の収集や卒業生の就労状況を紹介することで、より生徒に適した職業教育を推進する。	施策Ⅰ-4					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和8年 月 日